

クライド・プレストウィッツ著「東西逆転 - アジア・30億人の資本主義者たち - 」を読む

- インターネット社会を考える -

1. インターネットは政治に重大な影響を及ぼした。いかなる政府も国民が情報にアクセスするのを抑えることはできないので、20世紀の昔ながらの全体主義国家はもはや成り立たなくなった。(このように、インターネットは共産主義の脅威に対して防衛策を講じるという当初の目的をまったく思いがけない形で果たした。)

2. 経済に与えた影響もそれに劣らず大きい。

(1) まず人数が膨大だ。

世界的な経済システムにこれほど多くの人が新たに加わった例はかつてない。

(2) 彼らはみなハングリーだ。

物理的な意味で貧欲というより、世の中に追いつき、周りから尊重されたいという思いからハングリー精神をもっている。

学ぶことに熱心で、積極的に働き、自分たちと同じ立場の西欧人と引けを取らないことを、いや、むしろそれに勝つことを実績で証明しようと躍起になっている。

週35時間のペースで働こうとか、コンピュータサイエンスの博士号は努力して取得するだけの価値があるだろうかなどとは考えていない。彼らにとって、80時間働かない週は休暇と同じなのだ。博士号を取らなければ致命的なのだ。

このエネルギーとやる気のおかげで、グローバル化の第3の波は、画期的でダイナミックなものとなった。(P.78 ~ 79)

クライド・プレストウィッツ著

柴田裕之訳「東西逆転」NHK出版 2006年3月25日刊

- 2006年8月18日記 -